

吉田川志田谷地防災センター 着工式（開催）

- 令和元年東日本台風で大規模な浸水被害が発生した大崎市鹿島台志田谷地地区の水防災拠点において、吉田川志田谷地防災センターの合築工事（大崎市、国土交通省）に着工することから令和3年10月14日（木）に着工式を開催（大崎市の関係者、住民など約40人が参加）
- 大崎市は地域の一時避難場所の確保、水防活動の体制強化など、国は災害対策車両の分散配備、排水活動の体制強化などを目的として整備を実施。
- 住民代表は、『防災センターが完成すれば災害時の一時避難所、災害対応の現地指揮所、地域の交流活動など様々なことができる。』『先人が築き上げた地域を力を合わせて守っていきたい』と期待の言葉を話した。



令和元年東日本台風における水防災拠点の活用状況（2019年10月14日）

▲伊藤 康志
大崎市長 挨拶▲國友 優
東北地整河川部長 挨拶▲武藤 勝実
上志田行政区長 期待の言葉

吉田川志田谷地防災センター 完成イメージパース



▲鍬入れ式の様子

挨拶 「吉田川志田谷地防災センター一着工式」



いとう やすし
■伊藤 康志 大崎市長 挨拶

- これまで幾度となく水害に悩まされてきました当地域にとりまして、この防災センターが整備されますことは住民皆様の悲願であり、復興に向けた象徴として期待しているところでございます。この施設は、浸水被害発生時の迅速な排水活動に資するとともに災害時の防災拠点として活用を図るものであり、平常時には地域住民の自主的な地域活動の拠点として、さらにはこの地域の干拓の歴史や水害との闘いの経験を踏まえ、防災教育の一助にもつながる重要な役割を持つ施設となるものであります。
- 国、流域自治体、地域が連携して減災対策に取り組む、まさに流域治水対策の先駆的事業として、この施設が地域防災対策の拠点として役割を果たせるように取り組んで参りますことをお誓い申し上げます。



くにとも まさる
■國友 優 東北地方整備局 河川部長 挨拶

- 令和元年東日本台風の被害を踏まえて策定した「吉田川・新たな水害に強いまちづくりプロジェクト」は、約270億円の予算を集中的に充当し、河道掘削、堤防整備等の取り組みを実施し、再び東日本台風と同規模の洪水が万が一発生しても氾濫を防止し、吉田川流域における浸水被害を少しでも小さくする事業を進めて参る所存でございます。
- 「吉田川志田谷地防災センター建築工事」に本日着工させて頂くことが出来ますのは、ひとえに共に整備を進めて頂いている地元大崎市の関係各位、地域住民の皆様方のご理解とご協力の賜と心から感謝を申し上げます。
- 今後とも出来るだけ早期に洪水時の被害軽減効果を発揮させることが出来るよう、精一杯頑張ってお参りますので、引き続き、皆様方のご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



ごとう かねのぶ
■後藤 錦信 大崎市議会 副議長（議長代理） 祝辞

- 令和元年東日本台風による洪水被害については、広範囲に深刻な浸水被害が発生し、地域住民も約1か月半に及ぶ避難生活を余儀なくされるなど、甚大な被害がもたらされたことについては、記憶に新しく、今なお復旧、復興に向けた様々な施策が進められておりますので、議会といたしましても、ともに取り組んで参りたいと考えております。
- 地域の防災機能を高め、災害発生時においては一時避難所や、災害現場で直接指示できる指揮所など、地域防災の拠点となることはもちろんのこと地域コミュニティづくりにも貢献できる施設であると大いに期待をしております。



むとう かつみ
■武藤 勝実 上志田行政区長 期待の言葉

- 2年前の昨日、台風第19号による水害により甚大な被害を受けました。それと同時に多くの関係機関、ボランティアの皆さんにご支援をいただきましたことは誠にありがたく、いまさらながら深く感謝申し上げます。
- 防災センターが完成すればその役割として一時避難所、防災資材機材の備蓄、災害対応時における現地指揮所、防災教育の場、地域の交流活動など、様々なことができる施設になると思います。ただ単に、地域の施設として利用されるのではなく、志田谷地の歴史を知ってもらうためにも、多くの人々の交流施設になってもらえれば良いと思います。
- ここから見下ろす豊穡の大地は入植された先人たちが、毎年のように襲いかかる水害と闘いながら心血を注いで築き上げたものです。この地を再び泥の海と化すことのないように力を合わせて共に守っていきたくと思います。